NPO法人 金堂まちなみ保存会 ニュース

第１３号
平成２２年　３月２５日発行
発行者：特定非営利活動法人
金堂まちなみ保存会
理事長　西村　實
普及啓発委員会

金堂まち探検パートⅣ

金堂まちなみ保存会では、今年で四回目となる金堂まち探検を十二月二十三日に開催しました。趣旨は二点です。

一点目は子どもたちが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された金堂地区に住む人々と語り合って、地域の文化や歴史への理解を深めることです。

二点目は子どもたちが金堂まち探検で学んだことや、新たに発見してことを絵や貼り絵、文章など形にしてみることで、地域愛を育もうという試みです。

いざ、まち探検に出発！

近年、子どもたちと地域の人々との絆や、地域との関わりなどが希薄になりつつあると言われています。地域の子どもは地域で守り、育てると言った関係を築き上げ、地域全体がまるで家庭のように感じられる地域でありたいとの思いから、行事に取り組んでいます。

今回は小学生二十五人が三班に分かれ、金堂のまちなみへと探検に出かけました。

訪問した所は、いずれも近年改修した、金堂自治会館・稲荷神社・西弥呉服店です。

金堂在住の大学生や滋賀県立大学生・保存会員の案内で改修前後の違いや、古い建物を残して、使い続けるための工夫などを学びました。

その後、金堂まちなみ保存交流館で、日常生活ではあまり体験できない、杵と臼を使った餅つきや空き缶での飯盒炊飯などに取り組みました。

それが終了すると、それぞれの感想を自分流に紙芝居にして参加者全員が感想を発表しました。子どもたちの視点は千差万別で参加した子どもたちの感想や発見は、大人では想像できない素晴らしい発表が相次ぎました。

全体を通して参加した子どもたちからは「あ～楽しい一日やった。又、餅つきがしたい。木でできている建物はかっこいい」などと、溢れんばかりの笑顔で一日の感想を語ってくれました。

大人も子どもの笑顔に癒され充実した一日でした。

（福地　真一）

熱心に取り組む飯盒炊飯

発表会風景

『雛人形めぐり』事業に協賛

五個荘金堂町を主会場に開催されますイベントの一つ「商家に伝わる雛人形めぐり」が本年も二月二日より三月二十八日迄約二ヶ月間開催されています。

金堂まちなみ保存交流館も昨年に続き、当館ゆかりの方より寄贈された手作りの豪華な木目込み雛人形と、会員の市田耶良生さんのアートフラワーによる雛人形をメインに会員よりご協力展示していただいた三双の屏風で室内の雰囲気づくりに努めています。

連日多くの来館者を迎え、交流館本来の交流の場として、又生きがいの場として充分に満足頂ける様、保存会として最大の努力をして居ます。

人と人の出逢いの中でも特に五個荘金堂町のこれからの参考になる話し等を多数頂きながら、本会のあるべき未来像が何かしら見えてきた様な感じで希望を持ちつつ活動に頑張ってまいります。

（西村　實）

二十一年度保存事業

弘誓寺修理を終えて

弘誓寺住職

昨年九月、二年半に渡る弘誓寺書院保存修理工事をお蔭様で無事完了することが出来ました。数えきれないほどの多くの方々のご尽力の賜物と深く感謝申しあげます。

当書院は、天井裏にあった棟札によりますと江戸時代初期後半、宝永七年（千七百十年）に建立されたものです。

本堂の北側に位置し寄棟造桟瓦葺の建物で交流館入口門からその屋根を見ることが出来ます。

小規模ながらも、高官やご本山ご門首をお迎えするための本格的な上段の間を備え、庭園鑑賞のための広い縁や移動式の戸袋、引き出し処理する上段の間専用の簡易便所等、古風ながらもいろいろ意匠を凝らし、しかも静かで落着きのある建物です。

三百年の歳月による老朽化が進み、新築の方が安全でローコストだと言う意見もありましたが、保存修理事業完了後の建物を見た時、その建物の重みと風格を再認識し、壊さなくてよかった、有難いことだというのが正直な感想です。

合掌

編集後記

保存会ニュース第十三号の編集が始まったのは二月の初め。外は凍て付く様な寒さでした。

しかし編集の進行と共に季節は移り変わり、このニュースが皆さんのお手元に届く頃は、外は既に春の陽気に包まれていることでしょう。

「光陰矢の如し！」

皆さん、共に悔いのない有効な時間の使い方をしたいものですね。

（城市　智幸）